

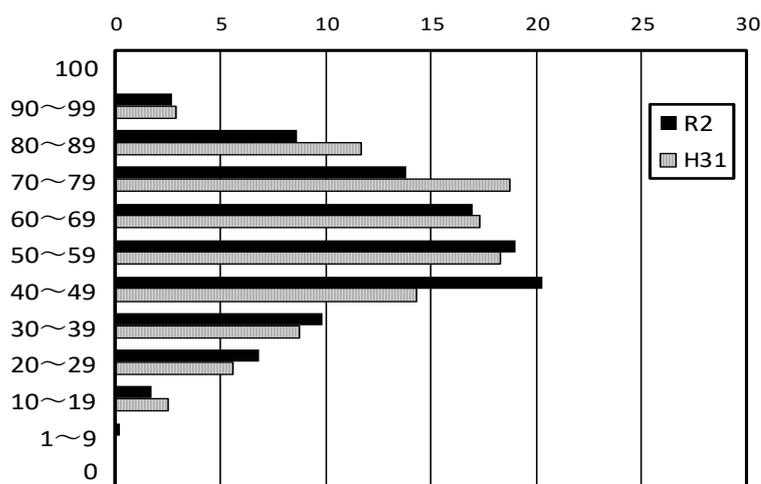
社 会

1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	割合 %	R2 %	H31 %
100	0.0	0.0	0.0
90～99	2.7	2.9	2.9
80～89	8.6	11.7	11.7
70～79	13.8	18.7	18.7
60～69	17.0	17.3	17.3
50～59	19.0	18.3	18.3
40～49	20.3	14.3	14.3
30～39	9.8	8.7	8.7
20～29	6.8	5.6	5.6
10～19	1.7	2.5	2.5
1～9	0.2	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0

〈グラフ〉得点分布



*合格者の中から、無作為に抽出した630人(14.3%)の結果である。

〈表2〉大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
①	地理的分野	58.5	62.3	60.5	69.9	70.2
②	歴史的分野	60.5	52.2	61.7	54.7	44.2
③	公民的分野	57.0	45.6	55.0	56.2	54.8
④	分野融合	43.8	45.3	50.8	48.3	50.0

2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点^(※)は、53.3点で昨年度と比べ下降した(昨年度55.7点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,417人のものである。

〈表1〉に関して、40点台の人数が全体の20.3%で最も多い(昨年度は、70点台で18.7%)。70点以上の人数は全体の25.1%で昨年度に比べ減少した(昨年度33.3%)。40点未満の人数は全体の18.6%で昨年度に比べ増加した(昨年度16.8%)。

〈表2〉について、分野別の正答率は①地理的分野の問題が最も高かった。昨年度との比較では、②歴史的分野と③公民的分野が低くなり、①地理的分野と④分野融合は高くなった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率」について、正答率80%以上の問題数は7問で、昨年度に比べ増加した(昨年度4問)。資料を用いて基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった(①の1(1)、2(1)①、2(2)、②の1(4)ア、2(1)、③の2(1)、④の1(1))。正答率40%未満の問題数は12問で、昨年度と比べ増加した(昨年度4問)。特に、歴史的分野の、資料を基に現代の日本と世界の関わりの流れについて判断する問題の正答率が低かった(②の2(3))。また、公民的分野の、資料を基に考察して説明する問題(③の2(4)ア)や、分野融合の、資料を基に知識を活用して判断する力をみる問題の正答率が低かった(④の2(1))。

3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率

大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	1	地理的分野	(1) 大陸と海洋の分布について理解している。	89.4											
			(2) 緯線と経線が直角に交わった地図について、地図の特徴を理解している。	46.8											
			(3) 赤道と本初子午線について理解しており、それらを基準として、アフリカ大陸の略地図を表現できる。	60.6											
			(4) 世界の各州における代表的な国の特徴について理解しており、適切な内容を判断することができる。	72.4											
			(5) 国土の小さい島国における水問題について、資料を基に考察し、説明することができる。	71.3											
	2		(1) 都道府県（北海道）の位置について理解している。日本の地域構成について、地域区分を理解している。	①92.9 ②76.8											
			(2) 地図の読み取りについて理解しており、適切な内容を判断することができる。	87.4											
			(3) 瀬戸内地方の地理的な特色について、気候を中心に考察し、説明することができる。	ア69.3 イ70.5											
			(4) 地産地消の取り組みから、食料自給率や環境問題について、資料を基に考察し、説明することができる。	ウ66.3 エ70.8											
			2	1	歴史的分野	(1) 西暦と世紀の関係について理解している。	58.7								
(2) 万葉集について理解している。	63.7														
(3) 資料から各時代の特色を読み取り、時代の流れを判断することができる。	30.5														
(4) 奈良時代と平安時代の代表的寺院から、その時代の仏教の特徴について資料を考察し、説明することができる。	ア82.9 イ62.9														
(5) 江戸幕府成立時の外交政策と、幕藩体制確立の関係について、資料を基に考察し、説明することができる。	ウ22.5 エ21.6														
2	(1) 明治維新の代表的な人物について理解している。	88.3													
	(2) 第二次世界大戦後の民主化政策について理解している。	50.0													
	(3) 現代の日本と世界との関わりの流れについて、資料を基に判断することができる。	18.1													
	(4) 幕末時の世界の情勢と、ペリーの来航との関連性について、資料を関連付けて考察し、説明することができる。	ア33.8 イ29.6													
	3	1		公民的分野		(1) 選挙の原則について理解している。	①65.2 ②76.8								
(2) 法律制定や憲法改正等の手続きについて理解している。			37.6												
(3) 基本的人権の尊重における、諸権利の関係性について判断することができる。			55.9												
(4) 自由権の内容について理解している。契約の重要性及び個人の責任について理解している。			ア51.7 イ27.8												
(5) 民主政治の推進と、選挙など国民の政治参加との関連について、資料を関連付けて考察し、説明することができる。			ウ38.3 エ41.5												
2		(1) 通貨に関する日本銀行の役割について理解している。	80.2												
		(2) 市場経済の基本的な考え方について理解している。	77.6												
		(3) 企業の経済活動と金融との関係について理解している。	56.5												
		(4) 個人や企業の経済活動における役割と責任について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア32.2 イ64.8												
		4	1		分野融合	(1) 個性や多様性に係る多文化共生について理解している。	93.2								
(2) 地理的分野におけるヨーロッパ州、歴史的分野における「記紀」や平安時代の文化、公民的分野における地方自治の仕組みについて理解している。	43.8														
2	(1) 国際連合の主要な組織について理解している。		①31.0												
	(2) 公民的分野と歴史的分野との関連性について、「情報化」の視点から資料を基に考察し、説明することができる。地理的分野と公民的分野との関連性について、「持続可能な社会」の視点から考察し、説明することができる。		②39.3 ③48.6												

4 特徴的な問題

1 地理的分野

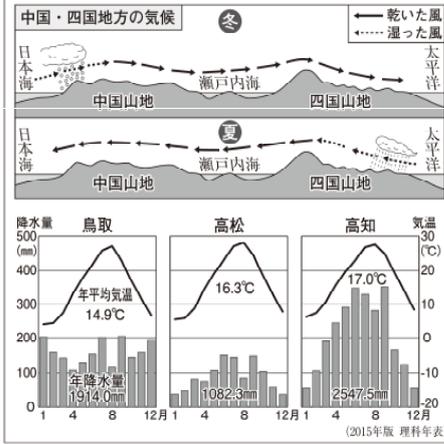
2 (3) 拓郎さんは、資料1の道の駅Cの特産品について調べたところ、オリーブは香川県の県木で、うどんも特産品だと知り、その背景について調べていく中で、資料3、4を見つけ、下のようにまとめました。資料3、4をもとに、**ア**、**イ**に入る適切な内容を書きなさい。

<標準解答>

ア (例) 降水量が少なくなる

イ (例) 小麦の栽培に適している

資料3 道の駅Cのある地域の季節風の様子と雨温図



資料4 小麦栽培のポイント (一部)

収穫期に降雨に当たると、生育不良などにより、収穫量や品質が低下する。

(「農林水産省資料」より作成)

拓郎さんのまとめ (一部)

香川県でオリーブが栽培され、うどんが特産品となったのは、資料3から、冬も夏も山地に季節風がさえぎられることで**ア**ため、その気候がオリーブの栽培や、資料4から、うどんの原料である**イ**ことが理由として考えられる。

<ねらい>

この問題は、瀬戸内地方の地理的な特色について、気候と農業の関連性を中心に考察を深めて説明する問題である。

<分析>

正答率は、**ア**が69.3%、**イ**が70.5%であった。課題としては、地形と気候の関係、気候と農業の関係といった複数の要因を関連付けて正確に説明できていないことなどが考えられる。

<提案>

授業では、地理的事象を一面的に捉えるのではなく、問いを工夫することで、地域的特色や地域の話題に関心をもたせたり、資料から読み取れることを適切に表現する能力を育成したりしていくなどの工夫も必要である。

2 歴史的分野

2 (3) 千穂さんは、カードCに関して、資料3の**ア**の写真を見つけたことから、これを使って第二次世界大戦後の日本の歴史に関する資料を作成するために、**イ**~**エ**の写真も集めました。資料3の**ア**~**エ**を、年代の古い順に記号で並べなさい。

資料3	千穂さんが集めた写真			
	ア	イ	ウ	エ
	東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて開通した東海道新幹線	国交正常化を果たした中国の首脳と日本の田中角栄首相	民主化の中心である「日本国憲法」公布の祝賀会	アメリカなど48か国との平和条約に調印する吉田茂首相

<標準解答> ウ→エ→ア→イ

<ねらい>

この問題は、現代の日本と世界の関わりの流れについて、資料を基に判断し、年代の古い順に並べ替える問題である。

<分析>

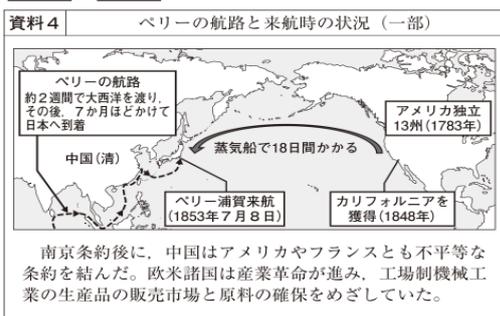
正答率は18.1%であった。課題としては、第二次世界大戦後の日本の歴史を大観し、それを世界の歴史と関連付けて多面的に考察し、時系列で整理できていないことなどが考えられる。

<提案>

授業では、基礎的・基本的な知識の確実な定着に加えて、世界の動きと我が国との関連などに着目して、具体的事例を積極的に取り上げて、生徒に多面的・多角的に考察させるなどの工夫も必要である。

2 歴史的分野

- 2 (4) 千穂さんは、カードDの下線部bについて調べていく中で、このころに多くの外国船が日本に現れていることを知りました。そして、「なぜアメリカは、日本へ開国を迫ったのだろうか」という疑問をもち、資料4、5を見つけて、下のような仮説を設定しました。資料4、5を関連づけて、**ア**、**イ**に入る適切な内容を書きなさい。



資料5 アメリカ大統領の国書の内容（一部）

- カリフォルニアから中国へ向かうわが国の船は多く、日本沿岸で捕鯨をしている国民も多い。遭難者は大切に保護してほしい。
- 蒸気船には大量の石炭が必要だが、すべて積み込んで行くことは不都合である。石炭と必需品の供給をしてほしい。

〔「ペリー提督日本遠征記」他より作成〕

千穂さんの仮説

アメリカが日本へ開国を迫ったのは、資料4、5から、大陸西部まで領土を拡大したことで、アヘン戦争後の**ア**をヨーロッパ諸国よりも有利に行うため、蒸気船で**イ**する航路の利用を望み、その中継地として日本を位置づけたからだろう。

<標準解答>

- ア** (例) 中国との貿易
イ (例) 太平洋を横断

<ねらい>

この問題は、資料を基に歴史的及び地理的な背景から、アメリカが日本に開国を求めた理由について、根拠を説明する問題である。

<分析>

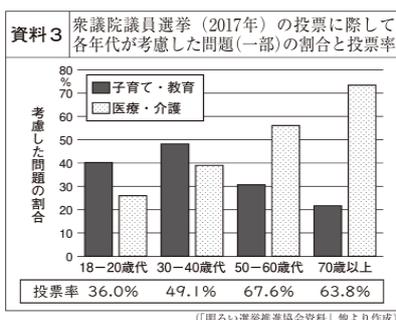
正答率は、**ア**が33.8%、**イ**が29.6%である。課題としては、日本の歴史の分岐点を、世界の歴史を踏まえた視点や地理的な視点から見る能力や、資料を基に考察し、適切に表現する能力が身に付いていないことなどが考えられる。

<提案>

授業では、基礎的・基本的な知識を活用して、欧米諸国における近代社会の成立やアジア諸国の動きなどを多面的・多角的に考察することで、日本の歴史の展開を世界の動きに関連付けるなどの工夫も必要である。

3 公民的分野

- 1 (5) 景子さんは、下線部eについて「政治参加」をより意識することに意味があると考え、資料3、4を見つけ、下のように発表原稿にまとめました。資料3、4をもとに、**ウ**、**エ**に入る適切な内容を書きなさい。



景子さんの発表原稿（一部）

資料3のように、各年代で考慮した問題が異なる場合、政治では、国民の支持を得るために、投票率が**ウ**を優先して政策に取り組むようになるかもしれません。近年、若者の投票率は低い傾向が続いていますが、若者が政治に積極的に関心をもったり、投票したりすることで、資料4のように、もっと**エ**ようになると思います。

<標準解答>

- ウ** (例) 高い年代が考慮した問題
エ (例) 若者の意見が政治に取り入れられる

<ねらい>

この問題は、民主政治の推進と、選挙など国民の政治参加との関連について、複数の資料を関連付けて考察する問題である。

<分析>

正答率は、**ウ**が38.3%、**エ**が41.5%であった。課題としては、複数の資料から読み取った情報を現代の政治的な諸問題と関連付けて考察し、適切に表現できていないことなどが考えられる。

<提案>

授業では、現代の社会的事象を単なる語句としてではなく、概念として習得させることが必要である。また、基礎的・基本的な知識の確実な定着に加えて、現代社会の諸課題について具体的・体験的事例を積極的に取り上げて、生徒に発表させたり、考察させたりするなどの工夫も必要である。